

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

寺町周辺の川土手も木々が美しく紅葉し、お天気の良い日には沢山の人が集まっておられます。のどかでホッとする風景です。

先日のもとと仏教婦人会の親睦旅行では、紅葉を訪ねて岡山の閑谷学校と宝福寺へ行って参りました。お天気は残念ながら雨でしたが、雨に洗われた紅葉もひときわ美しく感じられ、楽しい旅行となりました。

訪れた宝福寺は臨済宗の寺院です。宗派によって寺院の作りや形式が違いますから、その違いを見ることもまた面白いと思います。臨済宗や曹洞宗といった禅宗では自らの修行や精進によって徳を積み、悟りの境地へ近づこうとするため、寺院は僧侶のための修行の場です。座禅を組むための御堂があったり写経をするための御堂があったりします。

一方、私たち浄土真宗において寺院は僧侶だけでなく門信徒含め皆でお聴聞するための場所です。そのため、皆で集まってお聴聞できるように、本堂には仏さまを安置するお内陣だけでなくそれよりもっと広いスペースが私たちのために用意されているのです。

行事予定



十一月十七日 (金) 一時半より

ヨガの会 光圓寺 本堂

十二月十五日 (金) 一時半より

ヨガの会 光圓寺 本堂

平成三十年

一月十五日 (月) 一時半より

光圓寺 御正忌法善 光圓寺 本堂

講師 前任職 飯田耀朗師

*例年とは日にちが違います。お気をつけください。

*法要終了後、おぜんざいの接待があります

[御正忌法善と新年会の「案内」は改めて發送致します](#)

報恩講 ありがとうございます

去る十月二十四日(火)に光圓寺報恩講が勤まりました。

昨年からすべて椅子席にさせていただきましたところ、以前よりもお食事の後にゆつくりされる方が多くなったように思います。午後の法座が始まるまでの昼休みの時間を、しばし寛いでいただけると良いと思っております。そのためできるだけだけ入替なしでお食事ができるように、沢山の席を設けるようにしております。

今年のお齋は、打越地区の方々のご接待くださいました。地区の人数は少ないながらも新しい若い力が加わり、まことと仏教婦人会からもたくさんのお手伝いに加わり、頼もしく、嬉しいことでした。

お世話の皆さまごとうもありがとうございます。

【報恩講・秋季永代経法要 坊守覚え書き】

* 『平生業成』(へいぜいごうじょう) × 『平生往生』

蓮如上人のお言葉で、浄土真宗の真髄である親鸞聖人の教えを一言で表したものとされます。ちなみに、『平生往生』という言葉が一般によく使われますが、平生業成の音の間違ひからできた言葉です。

お聴聞^{すく}して如来さまがお浄土へ拯^{すく}い取ってくださいと聞くと、よく持たれるイメージは、自分の臨終の際に如来の来迎を得ることによって救われるというものです。そのために臨終の際にお念仏を称えないといけないと思われる方もいらっしゃると思います。救われるかどうかは臨終の時に決まるから、そのために準備しないといけないという考えです。これを『臨終業成』と呼びます。

これに対して平生業成とは、如来の救いは生きている今に得ることが決まるというものです。私たちは、救われたい気持ちが強ければ強いほど救いに条件をつけたがりです。「もししたら救われる」「もししたら助かる」などと考え・迷い、明日のために何か準備し続けます。しかし、どれだけ全部最後まできちんと仕上げたいと思っても、結局は途中で終わっていかなくてはならないのが、私たち人間です。

その中途半端な私たちを阿弥陀如来さまはもうすでに救うと決めておられるのです。できていようができていまいが、何も条件をつけずにみんな余さず拯^{すく}い取ってやると決めておいでなのです。

そんな如来のお慈悲に気付かせて頂くとき、私たちは明日のために今日を生きるのではなく、今日一日の今を大切に生きることにより目を向けることができるのです。

そのためにも、早く気づけよ、生きている今に信心いただきなさい、という親鸞聖人のおすすめが、平生業成の言葉に詰まっているのです。

金子大栄という真宗大谷派の学僧のお言葉に

求めずは与えられず、されど与えられたものは、求めたものに非ずというものがありません。私たちは与えられる救いの形さえも自分の思い通りにしたがりです。今のメリットを求めます。しかし、信心はいたなきもの。私の思い通りの形であるはずがありません。

